

電磁気現象にみる古典と量子の交叉点 (仮)

筒井 泉 (高エネルギー加速器研究機構准教授)著
 A5判 ・ 並製 ・ 150 ページ 本体予価 2,000 円
 ISBN: 978-4-621-未定 指定配本メ切 8/31

令和元年五月

惜しまれつつも休刊となった「パリティ」 最後の連載講座

昭和・平成・令和、その時代の最先端物理学をわかりやすく紹介した「パリティ」。2018年4月号から2019年3月号までの連載講座を加筆・修正のうえ単行本化しました。

本書は、科学史読みもの的要素の強い「電磁気学」の初等解説書。発見や理論的成熟の歴史をたどりながら電磁気現象についての解説を行い、それらが現代物理へどうつながるかをまとめています。その他、量子論の発展する19世紀から20世紀初頭の物理学者たちの他ではあまり見られないエピソードも併せて紹介します。

古典的現象である電磁気学に量子論的な視点を入れ、電磁気学の発展を現代的視点で見直した本書は、書学者に向けておすすめしたい一冊です。

《目次》

第1章	ファラデーの着想: 力線の登場
第2章	ファラデーからマクスウェルへの道
第3章	マクスウェルの貢献
第4章	場の実在性と2人の奇人
第5章	ベクトルポテンシャルは 物理的に実在するか?
第6章	電子の登場: 「場」と「粒子」の共存
第7章	世紀末の物理: 量子論の夜明け
第8章	アインシュタインの登場
第9章	黒体輻射から遷移確率へ
第10章	ファインマンの経路和と量子の束縛
第11章	量子の幾何学としての電磁相互作用 : ゲージ原理への道
第12章	電磁場のパラダイムの変遷 : エーテルの行方

注文書	丸善出版発行	条件: 新刊委託	指定配本数	貴店番線印
電磁気現象にみる古典と量子の交叉点 (仮) 筒井 泉 (高エネルギー加速器研究機構准教授) 著 A5判 ・ 並製 ・ 150 ページ 本体予価 2,000 円 ISBN: 978-4-621-未定 指定配本メ切 8/31 2019年9月 刊行予定			冊	
パリティ連載講座 既刊注文書 条件: 注文扱い・返条付			ご注文数	貴店番線印
ゆらぎと相転移 ISBN: 978-4-621-30296-5 本体価格 2,400 円			冊	
深化する一般相対論 ブラックホール・重力波・宇宙論 ISBN: 978-4-621-30231-6 本体価格 2,000 円			冊	
物理の基礎的13の法則 978-4-621-30189-0 本体価格 1,900 円			冊	↓ 下記どちらかお選びください <input type="checkbox"/> 新刊刊行時同時搬入 <input type="checkbox"/> 即日搬入